

令和4年度 田原西小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- ◎基本目標・・・社会の変化に対応しながら、生涯にわたって成長し続けることができるような、知・徳・体の調和のとれ、想像力と実践力に富んだ、たくましく心豊かな児童を育成する。
- ◎具体目標
- めざす児童像
- ・健康で明るい子
 - ・思いやりのある子
 - ・自ら考える子
 - ・がんばりぬく子
- 児童スローガン 『育もう！田西っ子プライド「思いやる心・気づく心・頑張りぬく心」』
- 「健康で明るい子」を児童の基盤としてめざすとともに、本校の伝統を背負って立つ田西っ子プライド「思いやる心・気づく心・頑張りぬく心」を磨いていく。

2 学校経営の理念（目指す学校づくりの視点含む）

- 「元気なあいさつが響き、教師も児童も生き生きと学び合う学校づくり」
- 《目指す学校づくりの3つの視点》
- ◇日々の生活にあいさつが響き、明るく活気のある学校
 - ◇子ども一人一人が生き生きとし、学び合える学校
 - ◇楽しく安心して生活ができ、保護者・地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- 学校教育目標の実現のため、「教育基本法」、「学校教育法」、「学習指導要領」並びに「第2次宇都宮市学校教育推進計画」、「第2次学校教育スタンダード」の趣旨や内容を踏まえた上で、本校の学校評価や各種調査の結果に基づき、以下の方針を定め、学校経営の充実に努める。
- (1) 「健康で明るい子」を育成するために、健康で安全な生活ができるように、社会的規範や基本的生活習慣を身に付ける指導と、体力の向上を図る教育活動を推進する。
 - (2) 「思いやりのある子」を育成するために、自他の生命と人権を尊重する心や思いやりの心などを育む豊かな体験活動を実践し、全教育活動を通じた道徳教育を推進する。
 - (3) 「自ら考える子」を育成するために、主体的、対話的で深い学びを重視した授業を展開し、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間力等を育む学習活動を推進する。
 - (4) 「がんばりぬく子」を育成するために、自ら考え行動し、自分を律していける能力をもち、他者と協働しながら創造的かつたくましく生きていくことを目指して、創意と工夫による教育活動を推進する。
 - (5) すべての教職員が、高い倫理観や人権意識と使命感をもち、真摯な態度で自己研鑽に努め、児童一人一人を大切にする教育活動を実践し、誰からも信頼される教職員として職務に励む。また、教職員が健康でいきいきとやりがいをもって勤務し、児童と向き合いながら質の高い教育が行えるよう、教職員の働き方改革の視点到に立ち、職場環境改善のための取組を推進する。
 - (6) ○教育活動の一層の質の向上を目指し、カリキュラム・マネジメントにより、学習効果の最大化を図るとともに、本年度の重点目標等について学校・保護者・地域住民が共有できるように、学校地域協議会、田原地域学校園との連携強化を図りながら地域とともにある学校づくりを推進する

〔田原地域学校園教育ビジョン〕 自らすすんで何事にも取り組む子どもの育成

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、公教育の立場を堅持した教育課程を編成する。
- (2) 教育目標の具現化を図るために、本校の実態（施設・設備・職員構成・地域環境）、児童の発達段階や特性、地域社会や保護者の願い等を十分に把握し、「人権尊重の教育」を基盤に、知・徳・体の調和の取れた生きる力を育む教育課程を編成する。
- (3) 学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実を目指した学習指導を展開し、基礎的・基本的な事項の定着と子に応じた学習活動の展開・充実に努める。
- (4) 各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・宇都宮学・プログラミング的思考力を育成する学習・外国語活動及び外国語科の特性を生かし、教科横断的な視点に立って、調和と統一の取れた編成に努める。
- (5) 前年度の教育活動の反省（学校評価）を踏まえ、柔軟な指導の形態、指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用に努め、一人一人の教育的課題がより確かに解決されるように展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・『育もう！田西っ子プライド「思いやる心・気づく心・頑張る心」』を合言葉に、全教職員がチーム力を高めながら、児童が自ら学ぶことの喜びや楽しさを感じることができる活気ある学校づくりを推進する。
- ・ 地域の教育力をこれまで以上に有効に活用し、学校地域協議会や地域学校園と連携した「地域とともにある学校づくり」を推進する。

【学 習 指 導】

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫

～「自らの思いを表出し、学び合う楽しさを味わう児童の育成」～

- ・ 学びに向かう力等と協働して課題解決に取り組む態度を育成するために、実生活に関連した課題設定により、主体的に学習に取り組めるようにする。
- ・ 児童が多様な考えに触れ、相互に関連付けたり、共通点や相違点を見出したりすることができるように、教師のコーディネート力を磨いていく。
- ・ 全教育活動を通して、「書くこと」を実践し、習慣化を図る。

- 課題設定やノートの活用の仕方などの指導を通し、自主学習で取り組む内容・方法を明確にして、家庭との連携を図った家庭学習の習慣を図る。

【児 童 生 徒 指 導】

- ・ 確かな児童理解と認め励ます指導の推進により、一人一人の自尊感情を高める学級経営の充実をめざす。
- ・ 自らの考えで正しく判断し、主体的に行動できる児童の育成に努める。
- ・ 児童が楽しく明るく生活できるようにするために、いじめ・不登校を生まない指導を充実する。

- 元気に生き生きと生活し、明るいあいさつや正しい言葉遣いができ、思いやりをもって行動できる児童の育成【地域学校園共通目標】

【健康（体力・保健・食・安全）】（元気アップ教育に係る取組を含む）

- ・ 進んで運動し体力を高めるために運動の習慣化と各種検定等の充実を図る。
- 自らの健康を管理し、健康課題を改善するための生活習慣の育成を図る。
- ・ 丈夫な体をつくるための望ましい食習慣の育成を図る。
- ・ 自分の命を守る行動力を身に付けるための、安全指導の推進に努める。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 授業において、「宇都宮モデル」を活用して分かる授業を展開し、学ぶ楽しさや分かる喜びを味わうことのできる学習活動を重視する。 ② 学習に関する基本的な行動様式について共通認識を図り、基礎基本を習得する場と時間の確保を行う。 ③ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業研究会や授業を相互に見合う機会を充実し、指導力の向上に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が91.9%であり、十分に目標値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続する。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。 ③ 児童会活動や各委員会における縦割り遊び・給食・清掃における縦割り班活動を通して、異学年間の交流を活性化し、相手を思いやる心を育む。	B	【達成状況】 教職員、地域住民の肯定的回答が100%、児童の肯定的回答が、94.4%であり、十分に目標値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続する
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 廊下の歩行、チャイム着席を含む時間の厳守を重点課題とし、秩序と安全の大切さについて、根気強く指導する。 ② きまりやマナーを守って行動していることを、児童会活動等で児童が相互に認め合う場や教師が称賛する機会を設け、教師を中心に規範意識の醸成を図る。 ③ 生活目標と関連付けた具体目標を、各クラスで考え掲示する。	B	【達成状況】 教職員、地域住民の肯定的回答が100%、児童の肯定的回答が、88.8%であり、目標値に達している。児童の肯定的回答は、前年度より0.6%上昇した。 【次年度の方針】 ・児童指導主任を中心として、次年度も規範意識を高める放送などを行っていく。

目 指 す 児 童 の 姿	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒地域住民 80%以上	① 児童会で実施する「あいさつサポーター」制度や、PTAや地域と連携を図ったあいさつ運動を推進し、自然にあいさつができる学校を目指す。 ② 家庭や地域でも時と場に応じたあいさつができるよう、保護者の意識を高めたり、協力を得たりできるような啓発の仕方を工夫する。 ③ 学級活動において、「場に応じたあいさつ」について話し合い活動を行い、あいさつを進んで行う態度を目指す。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が、93.8%、教職員、地域住民の肯定的回答が100%であり、目標値に達している。地域住民の肯定的回答は11.5%上昇した。 【次年度の方針】 ・学校外でもあいさつができるようになってきているので、引き続きあいさつを奨励する。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童の能力や取り組みを児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各行事等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 清掃を中心として、粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。 ④ 各教科や学級活動のキャリア教育を通して、夢や目標をもつことの大切さを実感できるよう指導していく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答が94.1%で目標値に達したが、児童の肯定的回答が85.6%で目標値に達している。 【次年度の方針】 各教科の授業や各行事等において、「田西っ子プライド」に触れ、意識づけを図ったことで児童の意識が高まったと考えられるため、今後も現在の取り組みを継続していく。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。 ② 養護教諭や栄養士と連携した授業を取り入れ、食育や保健指導を充実させ、栄養バランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的割合が100%、保護者の肯定的割合が93.8%であり、十分に目標値に達している。 【次年度の方針】 今後も取り組みを継続する。

児童の姿	A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。また、オンラインでの工場見学や出前講座などを活用し、感染症に対応した学習形態の実践と記録を蓄積する。 ② 家庭や地域社会から得られる情報を映像や画像資料に反映させ、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答が 85.6%で目標値に達した。保護者の肯定的回答が 74.4%であり、目標を下回ったが、昨年度より約 7 ポイント上昇している。 【次年度の方針】 ・オンラインなどのICTを活用した工場見学や講座を受講した体験を積極的に取り入れ、ライフキャリアを積み上げて望ましい授業感を育てていく。
	A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 外国語活動(英語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語活動(英語活動)に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。 ③ 活動における到達の姿を明らかにし、振り返りを位置づけることで自分の姿をみつめさせ実践に向けた意欲を高める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は85.6%であり、教職員の肯定的回答が82.4%であり、教職員が目標値をわずかに下回った。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続する。 ・授業以外でもALTと触れ合う時間を設けることで、教室で学んだことを生活の中で生かす意識を育む。
	A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答は76.9%で目標値を下回った。 【次年度の方針】。 ・総合的な学習の時間で学んだ宇都宮の良さを、異学年に向けて発表する場を設ける。 ・校外学習など、実際に見学する場を設けることで、宇都宮の良さに気付くようにする。

目 指 す 児 童 の 姿	A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 授業の中で効果的に1人1台端末等を活用する時間を設け、適切に端末等を活用する能力を育成できるよう指導する。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は91.3%で、教職員の肯定的回答が100%であり、目標値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続する。
	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。【A2①再掲】 ② 人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。【A2②再掲】 ③ 地域の高齢者と交流する機会を設けたり教育活動に協力して下さっている地域の方に感謝したりする活動を通し、感謝や相手を思いやる心を育む。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%、児童の肯定的回答が94.4%であり、十分に目標値に達している。 【次年度の方針】 ・引き続き、取組を継続する。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 総合的な学習の時間における環境教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 道徳教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を計画的に実施する。【A2②再掲】 ③ 教職員が、環境問題や人権教育等の「持続可能な社会」について考えを深めたり学んだりする研修を実施し、指導に生かすとともに、児童への意識づけを図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は89.4%で、目標値に達したが、教職員の肯定的回答が64.7%で目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・身近な問題や取り組みと、「持続可能な社会」というキーワードを結び付けるように支援し、児童の意識を高める。 ・それぞれの学年で学んだ「持続可能な社会」に関する内容を交流する場を設ける。

B 1 児童は、時と場に応じた正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、時と場に応じた正しい言葉づかいしている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 児童指導主任が中心となって「言葉づかいに気を付けようキャンペーン」を行い、自然に言葉づかいに注意できるような学校を目指す。 ② 家庭や地域でも時と場に応じた言葉づかいができるよう、保護者の意識を高めたり、協力を得たりできるような啓発の仕方を工夫する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が 85.0%，保護者の肯定的回答が、80.0%であり、目標値に達している。 【次年度の方針】 ・授業中や異学年交流の時に「～さん」とつけて呼ぶことや、ふわふわ言葉や受容的な言葉を意識した取組などを、継続して実践していく。
B 2 児童は、体育の授業や休み時間に進んで運動している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、体育の授業や休み時間に進んで運動している。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 各学級で休み時間の外遊び、さらに冬季の外遊びを奨励し、児童の意識を喚起する。 ② 運動委員会によるイベントを企画・実施し、運動の楽しさを体験させる。 ③ 各クラスによる共遊(ハッピータイム)だけでなく、縦割り班での共遊の時間も設けて楽しく運動する時間を増やす。	B	【達成状況】。 児童の肯定的回答が 91.9%，保護者の肯定的回答が 85.9%で、前年度より 5.3 ポイント下がっているが、目標値には達している。 【次年度の方針】 今後も取り組みを継続する。

目 指 す 学	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%であり、十分に目標値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続する。
校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 学級活動、道徳科の授業等を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ② 児童会が主体となり、児童が自ら「いじめゼロ運動」を推進できるよう支援し、望ましい児童集団の育成に努める。 ③ 定期的なアンケートや教育相談等を通して児童の心の状態を共感的に理解した上で、学校いじめ防止基本方針に基づき、組織的な対応によりいじめの早期発見、早期解消を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が98.8%、保護者の肯定的回答が85.1%であり、目標値に達している。 【次年度の方針】 ・引き続き、学校での教育方針や実施したことなどを、保護者に啓発していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児 童 85%以上	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 【A5①再掲】 ② 教育相談、アンケート、Q—U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が95.6%であり、十分に目標値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続する。

目 指 す 学 校 の 姿	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ② 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%である。 【次年度の方針】 今後の取り組みを継続する。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活気があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 児童が学級で存在感を実感できるように、児童の建設的な自己決定ができる場を設け、自主的・自律的に取り組むよう支援する。 ② 児童会活動において、児童の主体的な活動を重視するとともに、縦割り班活動を積極的に実施する。 ③ 授業や様々な活動を通して、教職員が児童のよさや努力を認め励ます指導を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答が91.9%、保護者の肯定的回答が89.4%、であり、目標値に達している。 【次年度の方針】 コロナ禍でも児童がいいきと活動できるよう、自主性や主体性を重視した工夫を取り入れていく。
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	① 各教科において、基礎・基本の定着を図るとともに、活用する力も育めるよう、指導方法の工夫改善に努める。 ② 算数科におけるTT、少人数、習熟度別等の学習形態を工夫し、分かる授業を展開する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答は98.1%で十分に目標値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続する。

目 指 す 学 校 の 姿	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 「チーム田西」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、教職員の協働性を高めることに視点を置き組織運営に努めるとともに、困難を感じる業務について気軽に相談し、助け合える雰囲気大切にしよう。 ② 一人一授業を通して、効果的な言葉かけや板書を教職員に伝え合うことで、学校全体の指導力の向上を図っていく。また、授業後の研究会で、成果や課題について相互に認め合い、理解し合う機会を繰り返し設けていく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%であった。 【次年度の方針】 ・日常の一人一人の授業の研究成果を教職員に伝え合うことで、引き続き学校全体の指導力の向上を図っていく。また、授業後の研究会、成果や課題について相互に認め合い、理解し合う機会を繰り返し設けていく。学校の諸課題への対応や、学校行事の準備・運営等に、全教職員が協働し組織運営に努める。
	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善として、会議のペーパーレスや行事の振り返りが次時に有効に生かせるような工夫をしている。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、ミライムなど業務を効率的に進める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%であり、目標値を上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、学習情報システムを有効活用した情報交換、文書作成、アンケートの実施、校内掲示板の利用を行ったり、日直の負担軽減など業務の効率化を図っていく。 ・新しい生活様式に沿った各種行事等の実施方法の改善を継続的に行う。
	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 田原地域学校園ビジョンに基づき、自ら進んで何事にも取り組むことを重点として小中一貫教育・地域学校園を推進する。 ② 田原中と連携し小中合同の「あいさつ運動」や6年生の進学先中学校訪問等の取組について、各種学年だよりや校内掲示、HPなど様々な機会を捉えて積極的に発信し、理解を深める。 ③ 地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して連携を図り、学校園内の相互支援体制を充実する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答が100%で目標値に達した。保護者の肯定的回答が76.8%であり、目標を下回ったが、昨年度より約4ポイント上昇している。 【次年度の方針】 ・新しい生活様式に基づいて、地域学校園内の相互支援体制の見直しを図る。 ・6年生の中学校訪問やあいさつ運動、宮っ子チャレンジなど交流を主とする取組については新しい生活様式を加味して実施し、HPや学年だよりなどで積極的に保護者へ発信していく。 ・新しいビジョンに基づき、田原地域学校園各分科会における交流活動の充実をさらに図り、互いの理解を深める。

目	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 田原西小学校地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っていく。 ② 登下校や校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などにおいて学校支援ボランティアを有効に活用し、家庭や地域と連携して教育活動の充実を図る。 ③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。 【A7②再掲】	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 88.6%、地域住民の肯定的回答は 94.7%であり、どちらも目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・地域協議会を年4回開催し、テーマトークの場を設けて、多角的・多面的視野で意見を交換することで、学校経営方針に反映させていく。会を開催できないときは、地域の方の意見を反映できるような取組を行い、学校だよりやHPを通して発信する。 ・家庭や地域社会との連携による体験的活動を工夫し、地域の教育力をボランティアとして有効に活用していく
指 す 学 校 の 姿	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上 ⇒地域住民 85%以上	① 田原西小学校地域協議会を定期的に開催し、テーマトークの場を設けて、多角的・多面的視野で意見を交換することで、学校経営方針に反映させていく。【A22①再掲】 ② 地域や保護者の学校支援ボランティアを有効に活用し、家庭や地域と連携して教育活動の充実を図る。 【A22②再掲】 ③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。 【A7②再掲】	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答は 88.6%、地域住民の肯定的回答は 94.7%であり、どちらも目標数値を上回った。 【次年度の方針】 ・地域協議会を年4回開催し、テーマトークの場を設けて、多角的・多面的視野で意見を交換することで、学校経営方針に反映させていく。会を開催できないときは、地域の方の意見を反映できるような取組を行い、学校だよりやHPを通して発信する。 【A22①再掲】 ・家庭や地域社会との連携による体験的活動を工夫し、地域の教育力をボランティアとして有効に活用していく。【A22①再掲】 ・オンラインなどのICTを活用した工場見学や講座を受講した体験を積極的に取り入れ、ライフキャリアを積み上げて望ましい授業感を育てていく。【A7②再掲】

	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上 ⇒保護者 85%以上	① 毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険個所については迅速な改善や修繕に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症対策、感染症予防対策など、学校全体で時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答が100%、保護者の肯定的回答が89.3%であり、十分に目標値に達している。 【次年度の方針】 今後も継続して避難訓練などの安全に関する取り組みの様子を、学校だよりや学年だより、学校ホームページ等で発信していく。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 【A10①再掲】 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実、児童の意欲喚起のための啓発を含めた学校図書館の環境整備に努める。 【A10②再掲】 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 【A10③再掲】	【達成状況】 児童の肯定的回答は91.3%で、教職員の肯定的回答が100%であり、目標値に達している。 【次年度の方針】 ・今後も取組を継続する。
本校の特色・課題等	B3 児童は、毎日家庭学習に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、毎日家庭学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 年度当初に保護者向け「家庭学習のすすめ」や児童向け「自主学習メニュー」を配付し、家庭学習に積極的に取り組めるように支援する。 ② 家庭学習の内容から児童のよさや努力していることなどを紹介し、称賛したり伝え合ったりすることにより、成果を認め励ます機会の充実を図る。 ③ 家庭学習強化週間を設けて保護者に呼びかけ、学校と保護者が協力し合って定着を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は74.4%で保護者の肯定的回答は74.2%で目標値を下回っている。 【次年度の方針】 ・家庭学習の大切さを理解させ、意欲がもてるように継続して『家庭学習強化週間』を実施していく。 ・家庭への啓発を工夫し、家庭と連携して取り組めるようにする。

	B4 児童は、本を読むことが好きである。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、本を学習に活用したり、進んで読書したりしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上 ⇒保護者 80%以上	① 図書室の活用はもちろん、週1回の朝の読み聞かせ・朝の読書や外部人材の活用を通して、読書指導や言語環境の充実を図る。 ② 校内読書週間を設けて、児童に図書室利用を啓発するとともに、図書委員会による様々な取組を行う。 ③ 児童の意欲を高めるよう学習センター、読書センター、情報センターとしての機能を充実させる図書室の整備を行う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は80%で、保護者の肯定的回答は64.4%で目標値を下回っているが、昨年度より6.3%上がっている。 【次年度の方針】 ・「家読」の取組を今後も継続して実施し、家庭を巻き込む工夫をしていく。 ・図書館司書を活用し、朝の読書の時間にブックトークを行ったり、各学年の必読図書一覧を作成し、教室に掲示し児童の読書状況が一目で分かるようにしたりと児童の読書意欲を高める工夫をしていく。
	B5 児童は、「田西っ子プライド」を意識して行動し、田西小の一員であるという自覚をもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、「田西っ子プライド」を意識して、「気づく心・思いやりの心・頑張りぬく心」を発揮して生活しています。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上 ⇒教職員 85%以上	① 「田西っ子プライド」の具体的な姿を分かりやすく示すとともに、粘り強くやり抜くことを意識して生活できるよう、向上心や自尊心の醸成を図っていく。 ② 清掃や縦割り班活動を通して、「気づく心・思いやりの心・頑張りぬく心」を意識した声掛けを行ったり称賛をしたりし、3つの心を育むようにする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答が、87.5%、教職員の肯定的回答は100%となり、目標値を上回った。昨年度と比較すると、児童は1.6%、教職員は4.8%上昇した。 【次年度の方針】 ・学校行事だけでなく、普段の様々な取組においても「気づく心・思いやりの心・頑張りぬく心」を意識できるよう、事前指導の充実や振り返りを行い、意識を高めていきたい。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

昨年度に引き続き、全体的によい結果が出ている。学校教育目標の具現化に向け「気づく心・がんばりぬく心・思いやりの心」を合言葉とし、児童一人一人が「田西っ子プライド」を意識し、自ら学ぶことの喜びや楽しさを感じることができる活力に満ちた学校づくりを目標として教育活動の充実を図るとともに、保護者・地域との連携・協働のもと、児童一人一人の自尊感情を高める学級経営の充実に努め、思いやりをもって行動できる児童の育成を目指してきた成果と考えられる。

特にA3「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」A5・7「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいる。」A14「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」A17「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」については、教職員・保護者・児童すべてにおいて昨年度より肯定的割合が高い。児童指導主任や学習指導主任のリーダーシップのもと教職員が一丸となって取り組んだ様々な教育活動が有効であったと考えられる。また今年度は、感染症対策を講じて、あいさつ運動やボランティア活動など、保護者や地域の方々との連携・協働活動も実施できたことにより、児童の活動に広がりをもたせることができた。今後も家庭・地域住民の協力を得ながら、連携・協働していきたい。A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」については、教職員・保護者・地域・児童すべてにおいて肯定的割合が高く、特に保護者の肯定的割合が昨年度より16.8ポイント上がった。学校と家庭・地域とが連携してあいさつ奨励を進めてきた大きな成果と言える。今後も家庭や地域と連携してあいさつ奨励の取組を継続していく。

A9「児童は、宇都宮の良さを知っている。」については、児童の肯定的回答が、目標数値を下回った。来年度も引き続き総合的な学習の時間で学んだ宇都宮の良さを、異学年に向けて発表する場を設ける。さらに、感染症拡大状況を鑑みながら、校外学習など、実際に見学する場を設けることで、宇都宮の良さに触れ気付きを深めるような活動を展開していきたい。

7 学校関係者評価

昨年度と同等の高い評価をいただいた。A4「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」については、94.8%の肯定的回答であった。地域協議会や地域学校園で連携して、継続的にあいさつ奨励をしてきたことにより、あいさつをする習慣が児童に定着し始めているようだ。今後とも、地域と連携してあいさつ奨励活動の充実を図っていききたい。

A6「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」は肯定的回答の割合が95.6%だが、昨年度より0.9ポイント下降したので、児童の安全面の充実は来年度に向けての一つの課題である。通学路の安全確保については、常に地域の多くの方々からご支援をいただいている。今年度は、地域協議会主催でPTAとの連携協働により通学路の除草ボランティア活動が実施され、児童の登下校の安全確保に有効であった。今後も、児童の様々な活動において、学校と家庭、PTA、地域との連携活動の広がりを探っていききたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

○今後も家庭やPTA、地域と連携し、地域学校園でのあいさつ奨励の取組を継続し、児童が自ら自然にあいさつできるよう年間を通して学校全体で呼び掛けていく。さらに、さん付け呼名やふわふわ言葉や受容的な言葉を奨励する取組を継続することにより、時と場に合わせた正しい言葉遣いを身に付けさせていきたい。

学習面においては、積極的にＩＣＴ機器を活用し、児童が互いに考えを交流することで、主体的で対話的な深い学びにつながるような授業の実践に努めていきたい。また、感染症対策を講じながら、校外学習の場を設けたり体験活動を充実させたりすることで、学んだことを生活に生かしていこうとする意識を育てていきたい。